

適した患者団体紹介

病院の実力

*奈良編 182

がんの相談支援

今回は「がんの相談支援」を取り上げる。

全国456か所の「がん診療連携拠点病院」には、がん患者や家族らの相談に無料で応じる「がん相談支

病院の実力「がんの相談支援」

医療機関別2021年の実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	新規相談 合計(件)	他施設 の患者や 地域 住民など (件)	常勤職員 (23年4月現在 人)	患者サロンの開催 (件)	連携協力している患者 団体 (23年4月現在)
大阪労災	3872	63	9	13	2
大阪国際がんセ	3472	444	3	0	4
近畿大	3221	302	9	4	1
大阪医科薬科大	3076	240	4	1	7
大阪赤十字	2763	93	19	0	2
関西医大	2484	76	4	0	0
和泉市立総合医療セ	2014	143	15	1	1
大阪急性期・総合医療セ	1333	53	18	0	0
大阪公立大	1054	178	2	0	3
八尾市立	834	60	5	0	0
奈良県					
県総合医療セ	609	60	6	0	4
近畿大奈良	509	40	3	0	0
天理よろづ相談所	214	70	5	0	4
和歌山県					
県立医大	1333	47	2	1	4
日赤和歌山医療セ	742	71	5	0	1

「セ」はセンター。

援センター」が設置されて
いる。一覧表には、202
1年の新規相談件数などの
実績を示した。

がん患者は「治療中も仕
事を続けられるのか」「治
療後に妊娠できるか」など
の切実な問題に直面する。
治療費や収入などの経済的
課題、治療に伴う不安は家
族にとっても深刻だ。

4月に適用されたがん診
療連携拠点病院の新整備指
針は、「初診から治療開始ま
でに必ずセンターを訪問で
きるような体制を整える」
ことを求めている。他の病

全国の調査結果は19日の
「安心的设计画」に掲載し
ました。

患者や家族が交流できる

「患者サロン」は、新型コ
ロナの影響で開催を断念し
ていた施設もあったが、現
在は「再開した」「計画し
ている」という声が増えて
いる。がん拠点病院は、同
じがんの種類別の患者が悩み
を分かち合える「患者団体」
と協力しているケースが多
い。紹介できる団体数を挙
げてもらった。

患者自身が治療の情報など
に触れるケースが増えてい
るが、医療的な根拠の薄い
情報もあり、情報の取捨選
択が難しい。そこでセンタ
ーが本やパンフレットなど
を精査して、患者に提供で
きると判断した正しいもの
だけを伝え、患者が不利益
を受けないようにしている
という。

精神的負担を軽減



「患者さんに来てもらえる開かれ
た場所が必要」と語る原口がん相
談支援センター長(生駒市で)

近畿大奈良病院 がん相談支援センター 原口直紹センター長 49

がん患者の悩みは、治療
面だけでなく、生活面でも
多岐にわたる。近畿大奈良
病院(生駒市)のがん相談
支援センターでは、専門相
談員や相談の研修を受けた
看護師、医療ソーシャルワ
ーカーが常駐。原口直紹セ
ンター長(49)は「悩みはが
んの種類によってだけだ
なく、患者さんごとに違
う。それぞれに合わせて対
応する必要があります」と語
る。

治療段階で課題が変化し
ていく上、生活費や治療費、
精神的な不安など担当の医
師には話しにくいことも
ある。同センターは県で
唯一、国立がん研究セン
ターに認定されている施
設。予約なしで時間制限
を設けず、匿名や通院し
ていない患者でも無料で対
応。患者の精神的な負担を
軽減している。

また、インターネットで
原口センター長は「小さ
な悩みも積み重なれば、治
療の問題になってしまう。
センターに来てもらえれば
支えになることができる」
と力を込める。

(前川和弘)

センターでは行政の支援
制度の活用や仕事・就学と
治療の両立、若い世代は
卵子と精子の保存など、ど
んな相談でも受け付けてい
る。例えば行政支援では、
医療費の自己負担を一定に
抑える「高額療養費制度」
や、医療費控除などを案内
している。